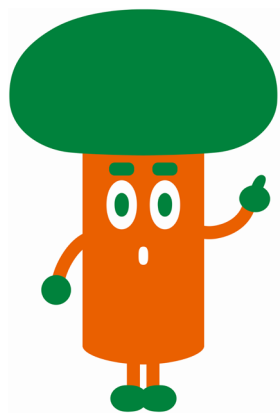


2024年度 第1四半期運用実績（速報）



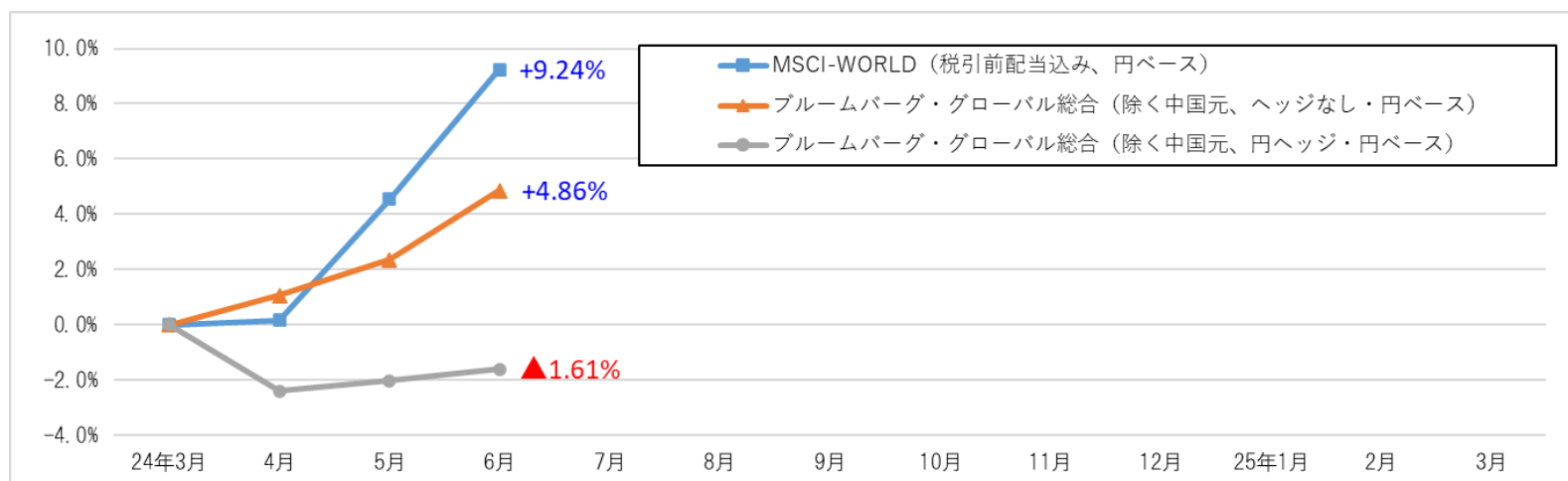
国民年金基金連合会

1. 2024年度第1四半期の市場環境（1）

【参考指標】

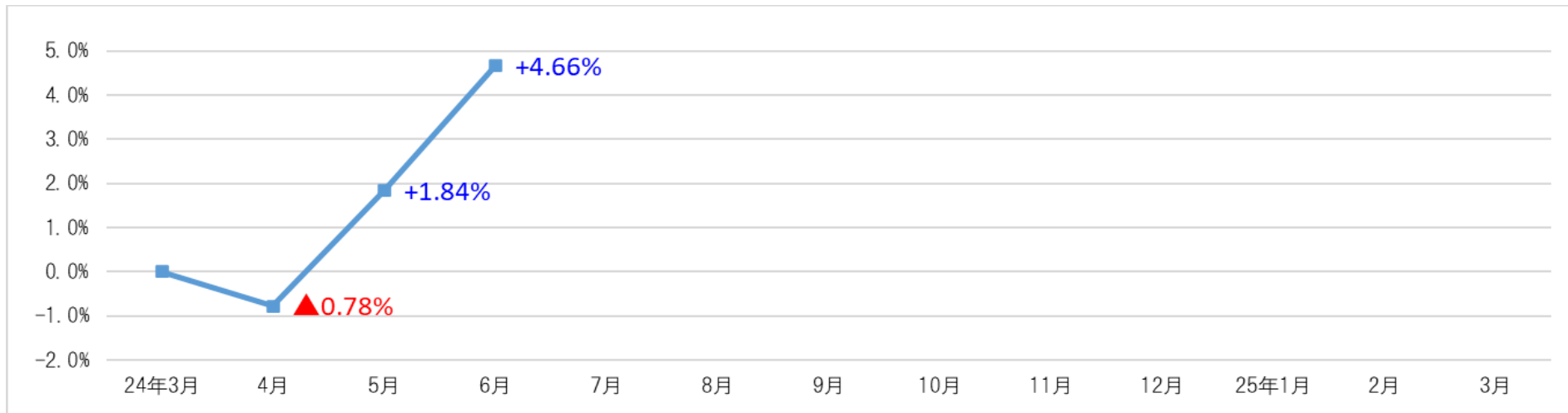
		2024年3月末	2024年4月末	2024年5月末	2024年6月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.73	0.87	1.07	1.05
	日経平均 (円)	40,369.44	38,405.66	38,487.90	39,583.08
国内株式	TOPIX (ポイント)	2,768.62	2,743.17	2,772.49	2,809.63
	米10年国債利回り (%)	4.20	4.68	4.50	4.40
外国債券	独10年国債利回り (%)	2.30	2.58	2.66	2.50
	NYダウ (米ドル)	39,807.37	37,815.92	38,686.32	39,118.86
外国株式	S&P 500 (ポイント)	5,254.35	5,035.69	5,277.51	5,460.48
	独DAX (ポイント)	18,492.49	17,932.17	18,497.94	18,235.45
	為替	円/米ドル (円)	151.35	157.37	157.15
	円/ユーロ (円)	163.45	168.26	170.60	172.40

【基本ポートフォリオの資産クラス別ベンチマークの推移】



1. 2024年度第1四半期の市場環境（2）

【基本ポートフォリオの複合ベンチマークの推移】



<基本ポートフォリオのベンチマーク及び構成割合の基準値>

- ・グローバル債券（円ヘッジ）：ブルームバーグ・グローバル総合（除く中国元、円ヘッジ・円ベース）：39%
- ・グローバル債券（ヘッジなし）：ブルームバーグ・グローバル総合（除く中国元、ヘッジなし・円ベース）：6%
- ・グローバル株式：MSCI-WORLD（税引前配当込み、円ベース）：55%

当四半期における基本ポートフォリオの複合ベンチマークは、プラス4.66%となりました。

主要国の株式市場は、国内は、企業による株主還元策の強化が好感されたほか、旺盛な自社株買いやNISAを活用した個人投資家の買いが支えとなり上昇しました。米国では、生成AI関連の半導体株をはじめとした大型ハイテク株が主導し、上昇しました。欧州では、欧州議会選挙における極右勢力の伸長等を受けた政治リスクの高まりにより、下落しました。一方、主要国の長期金利は、米欧では、雇用や消費の指標の底堅さを背景に早期利下げ観測が後退し上昇しました。また、外国為替市場は、米欧の早期利下げ観測の後退から、日本と米欧の金利差拡大の長期化が意識され、円安が進行しました。

2. 2024年度第1四半期の運用状況（運用実績）

【運用実績】

（1）収益率（修正総合利回り）

	4月	5月	6月	第1Q
収益率	-0.68%	2.59%	2.72%	4.64%

（2）時間加重収益率

	4月	5月	6月	第1Q	ベンチマーク	超過収益率
グローバル債券 （円ヘッジ）	-2.14%	0.38%	0.30%	-1.47%	-1.61%	0.14%
グローバル債券 （ヘッジなし）	2.03%	1.17%	2.40%	5.70%	4.86%	0.84%
グローバル株式	0.01%	4.16%	4.30%	8.66%	9.24%	-0.58%

※ベンチマークは、基本ポートフォリオにおける資産クラス別ベンチマークを指す（P2をご参照）

当四半期の時間加重収益率は、グローバル債券（円ヘッジ）がマイナス1.47%、グローバル債券（ヘッジなし）がプラス5.70%、グローバル株式がプラス8.66%となりました。

超過収益率は、グローバル債券（円ヘッジ）がプラス0.14%、グローバル債券（ヘッジなし）がプラス0.84%、グローバル株式がマイナス0.58%となりました。

3. 2024年度第1四半期の運用状況（資産構成割合）

【資産構成割合】

	資産構成割合 (基準値)	許容乖離幅 (上限)	許容乖離幅 (下限)	2024年6月末		※ 乖離幅
				残高 (億円)	(構成比)	
グローバル債券 (円ヘッジ)	39%	5.0%	-5.0%	19,736	35.7%	-3.3%
グローバル債券 (ヘッジなし)	6%	5.0%	-5.0%	3,368	6.1%	0.1%
グローバル株式	55%	5.0%	-5.0%	32,225	58.2%	3.2%
全体	100%			55,328	100.0%	

※乖離幅は、資産構成割合（基準値）からの乖離幅

当四半期は、グローバル債券（ヘッジなし）及びグローバル株式が上昇した一方で、グローバル債券（円ヘッジ）は下落しました。そのような状況を受け、2024年6月末の資産構成割合は基準値比で、グローバル債券（円ヘッジ）がアンダーウエイト、グローバル債券（ヘッジなし）がほぼ中立、グローバル株式がオーバーウエイトの状況となりました。

なお、当四半期中、各資産クラスの乖離幅が、許容乖離幅の上下限值を超えることはなかったことから、資産間リバランスは、実施していません。

4. その他

【用語集】

◆ 修正総合利回り ◆

修正総合利回りは、簿価ベースである分母の元本平均残高に未収収益、評価損益を加え、総合利回りよりさらに時価ベースに近づけようとしたものである。

$$\text{修正総合利回り} = \frac{(\text{当期実現損益} + \text{当期末未収収益増減額} + \text{当期評価損益増減額})}{(\text{元本平均残高} + \text{前期末未収収益} + \text{前期末評価損益})} \times 100 (\%)$$

(ご参考)

$$\text{総合利回り} = (\text{当期実現損益} + \text{当期末未収収益増減額} + \text{当期評価損益増減額}) \div (\text{元本平均残高}) \times 100 (\%)$$

◆ 時間加重収益率 ◆

運用期間中に発生したキャッシュフローの影響を排除した時価ベースの収益率。最も厳密に計算する場合、キャッシュフローが発生するたびに期間(時間)を区切り、その分割された単位期間ごとに収益率を算出した上で、それらの収益率を掛け合わせ(加重)、年当たりの複利に換算する。

◆ 複合ベンチマーク ◆

複数資産に投資を行うポートフォリオ全体の運用成果の基本的な評価基準となる収益率。資産構成割合にそれぞれの資産のベンチマーク収益率を加重平均して求める。一般的に、ポートフォリオ全体のベンチマーク(運用指標)として使用されている。